

ボランティアは楽しむことから



さくらさんより

おしゃべりだってボランティア活動になります。あなたの好きなことを誰かと一緒に楽しんでみるのはいかがでしょうか。まずは笑って寄り添ってみてください。

ある日のさくらさんの1日

- 12:50 : 障がい者施設に集合
- 13:00 : 喫茶活動開始
- 16:00 : 喫茶活動終了
- 17:00 : アルバイトへ

中学1年の時に「ジュニア奉仕団」という学校のボランティア団体に入ることがきっかけで、私のボランティアライフが始まりました。私の住む小牧市では、どの中学校にもこの団体があり、若いうちから気軽に活動に関わることができます。募金活動や清掃活動など内容はさまざまでしたが、私は身体障がい者施設での喫茶活動が印象的で、かれこれ9年続けています。

この喫茶活動は、2ヶ月に1回、土曜日に行われます。昼から夕方までの4時間なので、アルバイトをしても参加できます。活動は中学生が中心となり、ホットケーキ(今はバームクーヘン)などの軽食や飲み物を利用者に届けます。注文を取るのも学生が行い、利用者とはふれ合います。「どいあえず、笑顔だ!」と、活動に取り組み始めた当時を今でも思い出します。

中学卒業後も「世話人」として団体に残っているのは、その施設の利用者とまだ会話をしたいからです。天気の話をしたり、学校であったことを話したりなど、ただ楽しくおしゃべりしているだけです。たまに愚痴を聞いてもらうこともあります。

世話人という立場になってからは、活動に参加できる回数も減ってきましたが、ある時とてもうれしいことがありました。1年ぶりに喫茶活動に参加した時です。常連の利用者の方々に、「あんたのこと覚えとるよ」「あんたはここに来なあかんよ」とお声をかけていただいたのです。その時「あ、私、まだ必要とされているんだ」とやりがいを感じました。今はたくさんの方の後輩がいるので、彼らに「ボランティア活動って楽しい!!」と思ってもらえるように若い子と一緒にしゃべりのひと時を楽しんでいます。

そんな楽しいことが好きな私は、フィリピンに留学していた際もストリートチルドレンと遊んでいました。この時もただ、フィリピンで何かしたいと思って、偶然出会ったのがストリートチルドレンを保護している「カンルンガルサ・エルマ」という団体でした。私が通った施設は、男の子が生活している「ボーイズ・ホーム」です。そこに8ヶ月間、休みの日に通いました。言語もうまくなかった私ですが、「笑顔があれば、なんとかなるさ!」という思いで子どもたちと接しました。一緒にDVDを見たり、ハンカチ落としをしたりしました。中でも一番喜んでくれたのが、エクササイズDVDと一緒にエクササイズをした時です。特別なことはしていません。現地にあるものと、自分でもできることで一緒に楽しんでいました。

来年は社会人になります。それでもきっと私は、楽しみながら誰かの笑顔が見たいので、できる形でボランティア活動を続けていくと思います。



ストリートチルドレンが過ごす施設にて